

「あっ、株主なんだな」って思える瞬間

～毎日の生活を豊かにしてくれる株主優待～

ID 番号 : SL31014

灘中学校 3年

チームリーダー : 長谷川 頌

チームメンバー : 小栗徳亮

川口力也

桑田康弘

野口峻二郎

指導教諭 : 木下道之助先生

購入銘柄一覧

銘柄コード	銘柄名	金額 (円)
6 3 3 2	月島機械	570,000
2 2 0 6	江崎グリコ	700,000
9 8 6 1	吉野家 D&C	180,000
2 2 9 4	柿安本店	1,225,000
9 0 4 2	阪急電鉄	350,000
9 6 0 1	松竹	290,000
7 5 1 3	コジマ	100,000
2 5 9 3	伊藤園	370,000
9 8 4 0	ホームック	100,000
2 6 8 3	魚喜	160,000
9 7 3 1	白洋舎	310,000
4 9 1 2	ライオン	535,000
7 8 6 7	トミー	110,000
合計		5,000,000

1 テーマの決定

近年、コンビニなどで「おまけ」付き菓子がすごい人気である。中学生になった今でもまだ僕はこれが好きでグリコの「タイムスリップグリコ」などを時々購入しているのだが、この「おまけ」、実は株にもある。それは「株主優待」だ。これは株を保有していると毎年 1、2 回、会社から素敵なプレゼントがもらえるというものでストックリーグのテーマを考えていた僕はこれに強く興味をもった。

ではこの「株主優待」でどんなものがもらえるのだろうか？日経会社情報の巻末で調べてみると、お米、お菓子、食事券、建物工事の割引券、自社製品、特産品、買い物優待券など、とにかくたくさんある。なんと上場会社約 3700 社の内、約 730 社が優待を実施しているのだという。これではどれにしようか迷ってしまう……。

その時メンバーの一人から「まずテーマを決めてから選ぼうよ」という意見が出たので話し合い、以下のことを決めた。

まず人間が生活していくのに最も重要なのはやはり「衣食住」である。これが重要なこととは言ってもない。だがそれだけが全てではない。人が生活していく上では「余暇をいかにして過ごすか」ということもとても大切なことだ。また毎日の生活で必要になってくる「交通手段」も重要だ。僕はこのように考えてこれら毎日の生活に必要なものを豊かにしてくれる株主優待がいいと思った。さらにこれら毎日の生活と密接に結びつく株主優待ならそれをもたらした瞬間、または使った瞬間、「ああ、自分は本当にこの会社の株主の一人なのだ」と実感して喜べるに違いない。その上、充実した株主優待を実施している企業の株は根強い人気があり、また安定株主も存在するので優待は株価の下支えにもなる。以上のことから僕はテーマを「自分たちの生活を豊かにしてくれる株主優待」と決定した。

2 銘柄選定の方法

株主優待をテーマにするといってもこれはあくまで「おまけ」である。これだけを見て銘柄を選ぶのは危険だ。そこで僕は次の 2 つの場合に分けてそれぞれいろいろな視点で選んでいった。

その一・同じ優待が複数ある場合（比較による銘柄選定）

同じような優待を複数の企業が行っていることは極めて多い。このような場合、僕は同じ種類の優待をしている企業の 3、4 社を選んでそれらを以下の 3 つの視点で比較することでその中から 1 社を選び出そうと考えた。比較することで 1 つの企業の情報をどう見たらいいのかという基準が見えてくると思ったからだ。

(1)生活を豊かにする株主優待とその内容の比較

今回のテーマの基本である。いくら優待がよくても自分たちが利用できなかったり、もらってもうれしくなかったりすると意味がない。そこでこの株主優待がどう自分たちの生活を豊かにするのかを考えてみてその結果で比較する会社を絞った。また同じ種類の優待でも少しずつ内容も違うのでそれらの比較も表で行った。

(2)表を使った「全体利回り率」の比較と「株主資本比率」による会社のチェック

企業は優待以外にも配当を行う。これを見ることも必要だろう。僕は野村のホームページの決算短信から最新の年間予想配当を調べだし、この予想配当に1株あたりの株主優待の時価を加えた値段を株価で割った値を「予想全体利回り率」と名付けてこれらを比較した。

$$\text{全体利回り率} = \frac{\text{1株あたりの予想配当} + \text{1株あたりの株主優待の時価}}{\text{株価}}$$

また、この全体利回り率を比べる時には財務状況をチェックすることが必要である。財務状況が悪ければ、配当や優待がなくなったりすることもあるからだ。僕は財務状況を見る指標として「株主資本比率」というものを選んだ。この指標は会社の総資産（負債+株主資本）に占める株主資本の割合で比率が高いほど財務の安定性が高いと言われている。実に分かりやすい指標であるが、これが財務状況の全てを表しているわけではないので参考程度にとどめることにした。このデータは基本的に野村のホームページの決算短信の最新の連結決算（無いものは単独）のデータを利用した。

(3)この企業のどこを応援したいか(最も重要)

僕は銘柄選定の時、この視点を最も重視した。会社から資料を送ってもらったりしてこの会社はどのようなことをしている会社か、どう世の中のために役立っているのか、自分たちに身近な企業か、ということなどをみんなで検討していった。たとえの視点で他より劣っていたとしても会社がやっていることに對して納得し、ここが素晴らしいな、ここを応援していきたいなと思ったらそちらの株を買うこともあった。

その二・独自の優待を行っている場合（明確な理由による銘柄選定）

「独特の株主優待」を行っている企業から選ぶのは難しい。他と比較することができないからだ。かといってこの魅力的な優待（＝おまけ）だけを見て決めるのはいけない。そこで今回、僕は独自の優待を行っているたくさんの企業の中からまず、最初に掲げた「衣食住・レジャー」を豊かにする株主優待をしている企業を選んでいって、その上優待以外で「その企業のやっていることがどう世の中に役立っているか」や「自分たちの生活に身近な企業かどうか」など、（上の(3)の視点に相当）自分たちがその企業をなぜ応援したいのか**明確な理由**のあるところに投資していった。

以上の2つの場合に分けて具体的に選んでいく。

3具体的な銘柄選定

その一の場合

上記の3つの視点で銘柄を選んでいく。ただし(2)の視点の表で出てくる「利回り」とは「予想全体利回り率」のことであり、優待内容は年間にもらえる内容である。（カッコ内は優待を受けるのに必要な最低株数）

1.【お米】

(1)の視点

お米は日本人の基本食である。これをもらっていやがる人はいない。どの種類の米が好きかみんなで話し合ったところ日本一おいしいとされる魚沼産コシヒカリがいいと決まった。魚沼産コシヒカリをくれるのは下表の4社だ。

会社名	市場	株価	優待内容	予想配当	利回り	株主資本比率
東建コーポレーション	東2	1360円	魚沼産コシヒカリ 5kg (500株以上)	30円	0・027	25.1%
月島機械	東1	557円	" 4kg(1000株以上)	15円	0・032	40.7%
丸三証券	東1	224円	" 5kg(1000株以上)	5円	0・016	60.5%
ヒューテックノオリン	東2	1320円	" 3kg(500株以上)	25円	0・022	54.6%

(予想全体利回り率は魚沼産コシヒカリ 1kg700円として計算。株価は11/22の終値。月島機械は初年度の優待のみ8kgとなる。)

(2)の視点(表)

会社の全体利回り率では月島機械が一番高かった。株主資本比率も40.7%と低くない。

(3)の視点

配当利回り率1位の月島機械はプラント設計から各種機器の開発・製作まで手掛ける企業で環境保全や化学、エネルギーなど多方面の産業分野で技術を確立してきた。僕らが特に注目するのはこの会社が早くから環境保全、特に上下水処理の技術に取り組んできたという点。僕らの学校がある神戸市では下水道普及率98.6%(平成10年)とほぼ100%に近いが、田舎の町では50%をきっている所もたくさんある。上下水道の完備は国民の健康にも関わってくることなので(現にピロリ菌感染率は上下水道普及で減少するという調査結果が2002/05/06の医療ネット21に出ている)とても重要なことだと思う。これからも頑張っていって欲しい。

以上のことから[お米]の項目では月島機械の株を購入することになった。

2.【お菓子】

(1)の視点

お菓子の優待をする会社はたくさんある。どの会社も自社製品をいくらくれるのだが、僕らは「おかき」や「ようかん」などよりも「チョコレート」や「キャンディー」などの方が好きなのでそれらを優待としている企業3社から選ぶことにした。(下表)

会社名	市場	株価	優待内容	予想配当	利回り	株主資本比率
明治製菓	東1	311円	自社製品 1500円分(1000株)	7円	0.027	46.7%
江崎グリコ	東1	692円	自社製品 1600円分(1000株)	10円	0.017	47.1%
不二家	東1	110円	自社製品 3000円分(1000株)	3円	0.055	33.0%

(株価は11/22の終値)

(2)の視点(表)

会社の全体利回り率では不二家が1位だが、株価が110円(1999/01/04の終値は222円だった)とかなり低く、このままいくと100円をきる。株主資本比率も他の2つに比べて低い。最近では洋菓子部門で好調を維持しているようだが、やはり昔と比べると商いがかなり薄くなっている。よって僕らはこの視点で一番いいのは明治製菓だと考えた。

(3)の視点

全体利回りでは明治製菓が一番よかったが、僕らは江崎グリコを購入した。これには理由が3つある。

1 2つ目は江崎グリコがメンバー全員の一番よく買っているお菓子のメーカーだということである。冒頭に出てくる「タイムスリップグリコ」や「ポッキー」などをよくみんな買っていた。

2 2つ目は本社が大阪にあり、東京に本社のある明治製菓より僕らにとってなじみが深いということだ。また「グリコピア神戸」という工場見学の施設もあって筆者(長谷川)などは小学校の時学年でここに見学に行ったことさえある。

3 2つ目はこの会社の社長の江崎勝久氏が僕らの母校・灘校のご出身で現在も灘育英会の理事を務めていらっしゃるということだ。尊敬すべき先輩が経営していらっしゃる会社なので応援したかった。

以上の3点から結局僕らは[お菓子]の項目では江崎グリコの株を購入することにした。

3.【食事券】

(1)の視点

食事券をくれる会社はたくさんあるが、僕らは自分たちがよく食べていておいしく、しかもはやい所4社から選ぶことにした。(下表)吉野家の優待券は昨年まで系列のカレーショップなどでも使える優待券が年間10000円分もらえたのに比べるとずいぶんとトーンダウンした感があり残念だ。

会社名	市場	株価	優待内容	予想配当	利回り	株主資本比率
日本マクドナルドHD	店頭	1750円	食事券2冊(100株)	30円	0.0514	67.4%
壱番屋	店頭	1140円	" 3000円分(100株)	17円	0.041	43.6%
モスフードサービス	東1	804円	" 20000円分(1000株)	16円	0.045	67.9%
吉野家D&C	東1	174000円	牛丼並盛券20枚(1株)	3200円	0.0506	63.7%

(マクドナルドの優待券は1冊3000円、吉野家の牛丼は一杯280円。株価は11/22の終値。)

(2)の視点(表)

全体利回り率ではマクドナルドが1位だった。株主資本比率も高い。しかし最近あまりいい話題がない。2002/04/24、スウェーデン国立食品局(NFA)はストックホ

ルム大学との共同研究によって動物実験において発ガン性が指摘されるアクリルアミドが、「焼く」「揚げる」など高温で調理された場合、炭水化物を多く含む食品中（ジャガイモなど）に高濃度で検出されたと発表した。この報告によると同国のファーストフード店のフライドポテトには WHO が飲料水の許容範囲としているアクリルアミドの濃度の 100 倍もの量が含まれているという（ポテトチップスではその量が 500 倍だった）。研究チームは多くのがんの原因はアクリルアミドと考えているようだ。マクドナルドはこの影響やハンバーガー平日半額セールの中止による来店客数の減少と 8/5 のハンバーガー 59 円値下げによる客単価の減少が改善されず、苦しい状態が続いている。以上のことから日本マクドナルド HD の株を買うことはやめることにした。よってこの視点で一番いいのは吉野家 D&C と考えた。

(3)の視点

(2)で僕らが一番いいと思った「吉野家」。この会社は 2001 年 8 月から牛丼の値下げを断行して話題になった（400 円 280 円）。先の見えない不況の今、少ないおこづかいで家族のため、会社のため一生懸命働いている方々が安く牛丼を食べられる。まさに「勤労する人の味方」である。これからも頑張って安い値段で牛丼を売り続けて欲しい・・・僕らはそう思ってここの株を買うことを決めた。

4.【肉】

(1)の視点

やはり夕食に出て僕ら中学生が一番うれしいのは「牛肉」。この牛肉をくれる会社は高級な松阪牛をくれる柿安、和牛の他にそうめんもくれるムラチクの 2 社だ。（下表）優待ではどちらかというとブランド・松阪牛をくれる柿安の方がうれしい。

会社名	市場	株価	優待内容	予想配当	利回り	株主資本比率
柿安本店	店頭	1210 円	松阪牛 10000 円分 (1000 株)	15 円	0.021	68.0%
ムラチク	店頭	780 円	和牛 10000 円分 そうめん 10000 円分 (1000 株)	10 円	0.038	52.2%

（株価は柿安が 11/22 の終値。ムラチクが 11/28 の終値。）

(2)の視点(表)

全体利回り率はムラチクが上回った。が、株主資本比率は柿安本店の方が高い。

(3)の視点

結局僕らは柿安本店を買った。その理由は 2 つある。1 つ目は僕らの家はよくお歳暮として柿安本店の商品を送っているということ。そしてもう一つは歴史の古さ、だ。柿安本店のホームページの「こだわり」というコーナーにも載っているが、メイン商品の松阪牛の素牛は但馬牛でその産地は兵庫県。僕らの地元の誇りである但馬牛を明治 4 年の創業から今まで丹精込めて育ててきた柿安本店を応援したいと思ったのだ。以上のことから[肉]の項目では柿安本店の株を買うことになった。

5.【足の便】

(1)の視点

全員が神戸周辺に住んでいる中学生の僕らにとって使う電鉄はかなり限られている。話し合ってみると普段使っている電鉄は 2 つだけだと分かった。(下表) 優待の評価は JR は一年に 30 回摂津本山～三ノ宮(170 円)を利用するとして、阪急は岡本～三宮(180 円)で回数カードを利用するとして計算した。阪急の優待は表に載せた他にも旅行割引券 4 枚があるので使う人にとってはさらにお買い得だ。

会社名	市場	株価	優待内容	予想配当	利回り	株主資本比率
西日本旅客鉄道	東 1	412000 円	2 割の運賃料金割引券 1 枚 (1 株)	5000 円	0.015	18.0%
阪急電鉄	東 1	342 円	4 回の回数カード 2 枚 ホテル宿泊(20%)割引券・ ホテル飲食(10%)割引券 各 10 枚、遊園地入場券 4 枚 (1000 株)	0 円	0.160	16.8%

(株価は 11 / 22 の終値。ホテルの割引券は六甲山ホテルで使うと考えて宿泊 21000 円 飲食 6000 円として計算。遊園地は 1 回 1300 円として計算。)

(2)の視点(表)

全体利回り率では阪急電鉄が上回った。でも配当が 0 円というのはちょっといただけない。土地の含み益が縮小したことで借金が膨らんだりして財務内容が悪化しているようだ。株主資本比率は両方ともかなり低い。

(3)の視点

1995 年に阪神・淡路大震災が起こった。これで大打撃を受けたのは阪急電鉄である。阪急電鉄はなかなか復旧しなくて現在でもその時失ったお客さんを完全には取り戻せずにいるようだ。加えて最近僕らが小さい時お世話になった宝塚ファミリーランドの閉鎖など厳しい状況が続いている。震災の被災者でもある僕らは打撃を受け、厳しい状況の中、頑張っている阪急電鉄を「地元の足」として応援したい・・・そう思っ
てこの会社の株を買うことにした。

6.【映画】

(1)の視点

僕らが見る映画は大手 3 社のものが多い。だからこの 3 社(下表) から選ぶことにした。映画会社の優待は 3 社とも同じで映画招待券を毎月 1 回くれるというものだ。優待面から見ると「自分たちが見たい映画」を上映する会社のものを受けたい。

会社名	市場	株価	優待内容	予想配当	利回り	株主資本比率
松竹	東1	628円	映画招待券12枚 (450株)	0円	0.064	27.7%
東宝	東1	1180円	映画招待券12枚 (1000株)	10円	0.024	55.8%
東映	東1	258円	映画招待券12枚 (1000株)	5円	0.089	26.2%

(株価は11/22の終値。映画1本1500円として計算。映画館によっては2枚で1本しか映画を見られないところもあるようだが、ここでは1枚で1本見られるとして計算。)

(2)の視点(表)

全体利回り率は東映が1位だった。また株主資本比率は業界トップの東宝が際立って高かった。

(3)の視点

利回り1位の東映は子会社の東映アニメーションも好調なのだが、どうも映画は「ヤクザとまんが」のイメージが残っていて時代遅れに思える。東宝も最近「ゴジラ」や「とっこ八木太郎」などが多く、あまり僕ら好みではない。

一方、松竹は今、大人気の「ハリーポッター」2作目やもうすぐ公開になるレオナルド・ディカプリオ主演の「ギャング・オブ・ニューヨーク」など僕ら好みの映画をよく上映する。話し合った結果、やはり自分たちが好きな映画を上映する会社(=松竹)を応援したいと決まった(これは(1)の視点にも合う)。またこれらはかなりの話題作であり、集客数が見込めるので個人消費減に伴う映画業界の冷え込みをはねのけて収益も安定するだろう。

以上のことから[映画]の項目では松竹の株を買うことになった。

7.【家電】

(1)の視点

僕らだけでなく両親も大好きな家電。株主優待はどこも商品の割引券だ。

商品を10000円以上買ってやっと1000円券1枚使用可能というように制限はついてはいるが、十分使えるものだ。メンバーがよく買う会社3社から選んだ。(下表)

会社名	市場	株価	優待内容	予想配当	利回り	株主資本比率
コジマ	東1	731円	1000円割引券1枚、 自社企画商品のボイス英会話ソフトの1000円割引券1枚(100株)	16.5円	0.050	32.5%
上新電機	東1	60円	200円優待券55枚(1000株)	0円	0.183	27.8%
ヤマダ電機	東1	2895円	2000円相当割引券(100株)	8円	0.010	42.8%

(株価は11/22の終値)

(2)の視点(表)

全体利回り率では上新電機が1位になったが、ただ株価が低すぎるだけのようだ。2002/03/29の株価は133円だったのに比べても今の株価の低さはやはり異常だ。こういう時は底値で買い時だという人もいるのだが、メンバーで最初から株価2桁の企業は避けよう(つぶれる可能性が高いように感じられるため)と言っていたので上新電機の株はやめることにした。結局僕らは全体利回り率ではコジマが一番いいと考えた。株主資本比率はヤマダ電機の方が高かった。株主資本比率は低すぎてはいけませんが、僕らにとってはあくまで財務の安定性を見る参考の指標だ。よってこの視点ではコジマのほうがいいと考えた。

(3)の視点

売上高業界トップのヤマダ電機と2位のコジマにはそれほど差があるようには感じられない。両方低価格を売りにしていて単純にこっちが安いとは言えない。考えてみれば両者は全国各地で激しく「YK戦争」を続けているライバル同士であり品物の値段などに大きな差があるはずがない。交通面でも基本的に家電製品を買いに行く時は車でいくことが多いので問題ない。よって僕らはこの視点ではコジマとヤマダ電機、両方がいいと考えた。

以上のことから(2)の視点で上回るコジマの株を買うことにした。

(注; 2002/12/04にヤマダ電機が安売りポスターの件でコジマを訴えたり、12/19に和光電気がヤマダ電機との合併会社の和光ヤマダ電機を賃借した店舗を取締役会なしで閉鎖し、和光への賃借料が未入金として訴えたりしたが、ポートフォリオ決定の期限後だったので考慮には入れられなかった。)

8.【飲み物】

(1)の視点

飲み物といえば筆者(長谷川)はペット緑茶が大好きで毎日必ず飲んでいる。これを送ってくるのはうれしい。話し合ったところ結局僕のイチオシの会社2社から選ぶことになった。(下表)

会社名	市場	株価	優待内容	予想配当	利回り	株主資本比率
伊藤園	東1	3580円	自社製品2000円相当 (100株)	40円	0.017	56.6%
キリンビバレッジ	東1	1898円	自社製品3000円相当 (1000株)	20円	0.012	35.7%

(株価は11/22の終値。)

(2)の視点(表)

全体利回り率、株主資本比率ともに伊藤園が上回った。

(3)の視点

僕がよく飲む緑茶は伊藤園では「お~い お茶」、キリンビバレッジでは「生茶」だ。どちらもおいしく、「ナチュラル・クリアー製法」の伊藤園、「59度」でじっくり緑茶

を入れるキリンビバレッジとそれぞれ製法も研究している。だからこの視点では僕らは両方いいと考えた。

以上のことから[飲み物]の項目では伊藤園の株を購入することにした。

その二

ここから先は比較ではなく、それぞれの明確な理由で銘柄を選んでいく。

1.【魅力的な食べ物】

(1)ホームック

市場	株価	優待内容	予想配当	利回り	株主資本比率
東1	899円	男爵いも 10kg (100株)	18円	0.048	45.6%

(株価は11/22の終値。男爵いも1kg250円として計算)

優待は今年も男爵いも10kgでこれは本当においしいらしい。食生活を豊かにするという意味でも実に魅力的だ。

またホームックは北海道でホームセンター(家庭用雑貨や日曜大工用品を扱う大規模店)を営んでいる会社だ。今、北海道は経済がとても冷え込んでいて大変な状況である。そういう状況の中頑張っている会社を支援したい。だから僕らはここの株を買うことにした。

(2)魚喜

市場	株価	優待内容	予想配当	利回り	株主資本比率
東2	310円	厳選塩数の子 400g (500株)	10円	0.065	29.2%

(株価は11/22の終値。数の子は5000円相当)

この優待でもらえる数の子はかなり高級品だ。日本一の数の子メーカー「ヤマニ」の塩数の子400g、さらに漬け汁まで京都の高級料亭「菊乃井」の村田吉弘氏特製のものなのだ。これが送られてきたら本当にうれしいだろう。

この会社はこれまでの魚屋のイメージを一新して「都会的で洗練された鮮魚専門店」を運営している。関西にもたくさん出店しており、メンバーの中でも小栗や川口の家ではよく神戸そごう店で買い物をしているらしい。本社は神奈川県だが、僕らにとっても身近な魚屋になっている。このことから僕らはここの株を買うことにした。

2.【洗濯】

・白洋舎

市場	株価	優待内容	予想配当	利回り	株主資本比率
東1	299円	30%割引券2枚(1000株)	2.5円	0.013	9.5%

(株価は11/22の終値。一回2500円分利用するとして計算)

この企業の優待は洗濯の割引券だ。筆者の家でも父親の背広や母親のワンピースや自分のジャンパーなどよく利用しているので「衣」の面でとても役に立つ。

また白洋舎は明治39年創業と大変歴史の古い企業で日本のクリーニング業界の草分け的存在である。さらに「洗濯科学研究所」という施設で新しい繊維製品が出るたびにその素

材に適した溶剤や正しいクリーニング法を研究してその結果はすぐに工場に生かされる。長年の経験と最先端の技術でこれからも頑張ってもらいたい、そう思ってこの株を買うことにした。

3.【洗剤・ハミガキ】

・ ライオン

市場	株価	優待内容	予想配当	利回り	株主資本比率
東1	527円	歯磨き、歯ブラシ、シャンプー、リンス、洗剤(衣料用、台所用、住居用) (1000株)	8円	0.019	44.4%

(株価は11/22の終値)

(優待は歯磨き178円×2、歯ブラシ138円×2、シャンプー298円、リンス298円、洗剤はそれぞれ358円、298円、128円、248円の計2260円。ダイエー本店調べ)

当初僕らは「住」を豊かにしてくれる優待としては建物の工事費用の割引を考えていた。しかし、よくよく考えてみると中学生の僕らはそんな優待をもらっても使えるはずがない。そこで再度話し合ったところ、「清潔」を届けてくれる家庭品の優待にしようと思った。またこの会社は社是である「愛の精神の実践」の一つとして社会への貢献(=主に福祉)に極めて積極的だ。幼稚園を訪問して子供がきちんと歯磨きするように指導したり、視覚に障害のある方でも製品情報を得ることができるように点字のパンフレットを作ったりしている。これからもよい製品を作りつつ、こういう活動も続けていって欲しい。そう思ってこの会社の株を買うことを決めた。

4.【特製トミカ】

・ トミー

市場	株価	優待内容	予想配当	利回り	株主資本比率
東1	1064円	トミカ特別記念セット(100株)	0円	0.009	34.4%

(株価は11/22の終値。優待のセットは1000円として計算。時価は大きく変動すると思われる。)

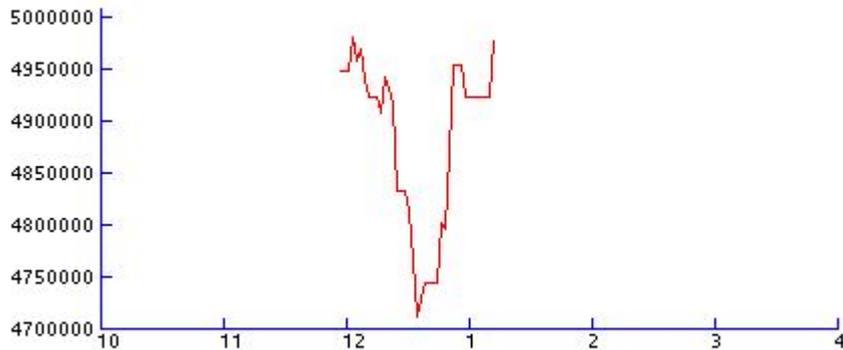
この会社の優待は「オリジナルトミカ」だ。中学生になった今でもまだトミカ好きの僕らにはたまらない。

僕らはこの会社に小さいころからお世話になってきた。車の基地みたいなのにたくさんのトミカを集めてよく遊んだものだ。最近個人消費の減少から玩具業界も厳しい状況が続いているようだが、そんな中でも子供たちに夢を与え続けるために頑張ってもらいたいと思ひ、僕らはここに投資した。

4 評価額の推移 (1/7 まで)

MAX = 4981021
MIN = 4712269

SL31014's Performance



(C) Nomura Securities Co., Ltd.

5 今回のまとめ (一日優待で過ごしてみる)

下の表は今回の投資でもらえる優待の一覧だ。

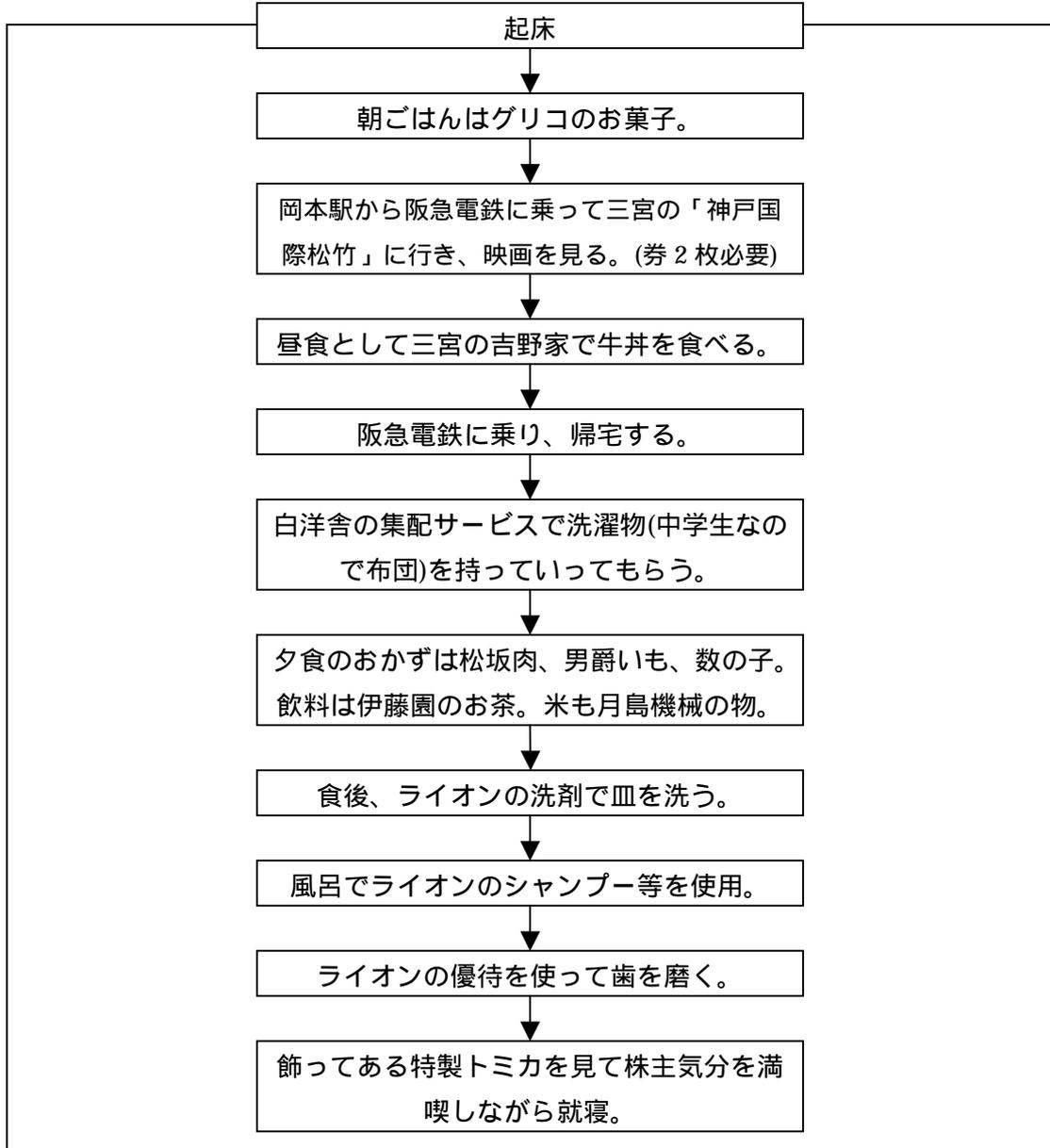
分類(衣食住など)	今回もらえる主な株主優待
衣	洗濯割引券、衣類用洗剤
食	お米、お菓子、牛丼無料券、お肉、男爵いも、数の子、飲み物
住	洗剤(台所用・住居用)・歯ブラシ・歯磨き・シャンプー・リンス
余暇	映画招待券、家電割引券、トミカ
交通	阪急の回数カード

僕らは自分たちが選んだこの優待が本当に毎日の生活を豊かにしてくれているかをチェックするために全部を一日の生活の中で利用した時を考えてみた。(下図)

するとなかなかいい1日を過ごせるのだ。「衣食住」だけでなくレジャーも充実していて正に「株主ライフ」を満喫していると言えるだろう。優待を十二分に利用できているので僕らの銘柄選定は基本テーマを見失っていない正しいものだったことが分かった。

(次ページに続く)

今回の優待を1日の中で使う時の例(冬休み中)



6 STOCK リーグで学んだことや今後の課題

(1) 企業を見るときは複数の視点から

今回、購入銘柄を選ぶ時に痛感したのは投資する時は企業をいろいろな視点から見なければならないということだ。いろいろな視点から見たことで企業をより正確に捉えることができたと思う。

(2) 投資には「比較」も大事

今回、同じ「株主優待」をしている企業、という観点で絞ってその中でいろいろな視点で比較して銘柄を決めていった。個々の企業をいろいろな視点で見るだけでなく、それらを比較することも投資には重要だと分かった。だが、今回の僕らの比較は完全なものではなく、まだ改善の余地がたくさんあると思う。

(3) 「株主優待」のおもしろさと今後の必要性

今回テーマにした「株主優待」は本当に多種多様でそれぞれの「企業らしさ」が出ていて調べる時も楽しかった。また、株主優待を利用することによって僕らのいう「全体利回り率」も大きくなる。優待はいわばおまけであり、必ずしも企業がやらなくてはいけないものではない。が、最近は優待をつけないと個人投資家が振り向いてくれなくなってきたように思う。日本の株式市場で優待の必要性がどんどん増してきていると感じた。現在は730社ほどが優待を行っているが、これからもどんどん増えていくことだろう。

(4) 日本経済の実態

STOCK リーグでは日本の経済について考えさせられることが多かった。少し前まで日経平均が一万円をきったら日本経済は終わりだ、と言われていたのに2003/01/07の日経平均は8656円50銭(終値)と9000円をきっている。日本の実態経済は予想以上に悪いということが分かった。

「株主優待」というのは欧米ではほとんどやらない日本特有の制度だという。昔から日本の経営はアメリカに比べて個人株主重視の傾向が少ないとよく言われている。日本の現在の株式会社の中では商法が改正されたにもかかわらず、まだコーポレートガバナンス(企業統治)について十分な理解の無い会社が多い。が、この優待制度は個人株主も会社のオーナーと考えて大切にしていこうという日本企業の姿勢そのものであり、それが今増えつつあるということは日本でも日本流の個人株主重視の傾向が強くなっているのだろう、と感じた。そして将来、僕らが大人になるころにはきっと個人株主重視の傾向がもっと大きくなっているに違いない。そんな中で投資をするのが楽しみだ。